

令和元年度 応用物理学特別演習

後期：毎週火曜日 16：30－18：00 C214 教室

特別演習の目的

講演者について：

自分の研究に関連した論文を読んで理解し、その内容を専門外の人々にもよく理解できるように解説する（本人の研究内容について紹介することも、可とする）。定められた時間内に話をまとめ、また質問に対して的確な応答をする能力を修得する。

参加学生について：

講演者以外の学生は、毎回演習に出席し、講演内容をよく聴取し、積極的に質疑応答に参加する。なお、無断欠席、遅刻、途中退席は単位に影響するので、注意すること。学会出席等でやむを得ず欠席する場合は、事前に本人が該当日の座長と世話人の山根(k-yamane@eng.hokudai.ac.jp)および応用物理学専攻教育・研究支援室の田口さん(shienshitsu-ap@eng.hokudai.ac.jp)に連絡すること。特に講演者が欠席の場合はできるだけ代わりの講演者(同じ研究室が望ましい)を探して併せて世話人に連絡すること。ただし、やむを得ない場合であっても欠席は3回までとし、4回以上欠席した場合は来年度の特別演習の出席によって補講してもらう。無断欠席を3回以上したものについては、自動的に再履となるので注意すること。

講演者への注意

1. 発表論文は自分の研究分野の中から、指導教員と相談して決めること。
2. 別紙の様式で講演予稿を PDF 形式で作成し、講演の前週の木曜日 12:00 までに応用物理学専攻教育・研究支援室の田口さん(shienshitsu-ap@eng.hokudai.ac.jp)に提出する。締め切りは厳守すること。
3. 目的でも述べたように、自分の専門分野の論文を他分野の人々に話すのであるから、理解を促すための予備知識や、自分の専門分野におけるその論文の位置づけおよび意義を述べる。次に論文の内容を分かり易くかつ簡潔に説明する。最後にその論文に対する自分の批評を述べるのが望ましい。
4. 講演時間は 20 分とし、質疑応答は 10 分とする。講演者はこの時間中、聴衆の興味を失わせることなく話すのも、演習の目的の一つである。
5. 講演者は必要に応じて、スライド、プリントなどを用意する。この際、論文における重要な式、図、結論は質疑応答の時まで聴衆に十分に印象づける工夫が必要である。
6. 各日の 1 番目の講演者は、他の講演者とともに午後 4 時 30 分までにプロジェクターへの接続機器（必要な機材があれば教務課から借りる）を準備し、持参した PC への接続を確認しておくこと。

参加学生への注意

1. 参加学生は毎回、演習に出席しなければならない（出欠をとる）。
2. 講演者の話をよく理解するように努め、自分の興味ある分野や不明な点について積極的に質問しなければならない。このことは、学会などの講演会における質問の仕方の練習になる（各人の質問の仕方も採点の対象となる）。
3. 講演者の発表（またその講演要旨）に関する把握度、印象、疑問などについてのレポートを、毎回特演終了時に提出することとする（「令和元年度 応用物理学特別演習 評価票」に記入。点線がついていますが、評価票は切り離さず、A4 1 枚のまま提出）。

特別演習の HP

<http://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/cacao/2019apl/>

以 上

令和元年度世話人：山根 啓作

内線電話：7883/ E-mail: k-yamane@eng.hokudai.ac.jp